

ハイマート Heimat

ぐんま日独協会会報

1998年 3月20日 発行

17 会員お便り
特集号

発行者 平形義人
発行所 ぐんま日独協会

〒371-0018 前橋市三俣町3-11-12
☎027-231-7212 FAX027-232-4082



・ぐんま日独協会クリスマスの集い ・平成9年12月7日 ・群馬会館地下食堂

■ハイマート17号の主な内容■

- 公開講演会・キルシュネライト女史をお招きして 2
- ベルリン国際見本市だより 3
- 国際交流まつり・輪になるクリスマス 4
- 会員のお便り (ドイツ最新情報) 5・6
- 会員消息・催しの案内 7・8

お知らせ

ぐんま日独協会第11回大会・公開講演会

- ・日時 98.4.16(木) PM0:30~3時 (一般入場無料)
- ・場所 ホテルメトロポリタン高崎・6F (高崎駅ビル)
- ・費用 参加費1人2000円及び平成8年度会費 (個人3千円 家族5百円 法人1口1万円) を同封の振替用紙にて4月6日までに振込み下さい。欠席の方は年会費のみ
- ・当日はドイツー日本研究所所長キルシュネライト女史の日本語による講演会が行なわれます。多数の皆さんの参加をお待ちしております。
- ・駐車場完備、8Pの案内・地図を参照。

題字:平形義人 表紙写真:角田 勤

あいさつ

ぐんま日独協会 (J.D.G.G.)

会長 平形 義人

1988年設立されたぐんま日独協会が、ここに11年目の総会を迎え、会報ハイマート17号を発刊することができますこと、皆々様の日独親善交流の御熱意に依るところと心から感謝申し上げます。

旧臘のクリスマス会には八木文夫会員のお孫様ヴァイオリニストの植村菜穂(文化庁派遣ウィーン在住)の特別出演を頂き、共愛学園のOBのコーラスや、前橋外科院長夫人の独唱、さては鈴木克彬夫妻のフォークダンスの指導まであり、中村局長肝煎のシクラメンの小鉢は2月末の今も尚、窓辺を飾ってくれています。

隣県長野の冬期オリンピックでは特にドイツの活躍が目覚ましく、日本勢も清水(スケート)原田・船木(ジャンプ)萩原兄弟(草津)等々の活躍に感涙を禁じ得ませんでした。

この国際大イベントに少しでもあやかりたいと存じ、ぐんま日独協会(G.J.D.G)ではドイツ-日本研究所長 Direktorin Prof. Dr. Irmela (イルメラ) Hijiya (日地谷) - Kirschnerreit (キルシュネライト) 先生をお招きして来る4月16日(木)高崎駅(6F)ホテルメトロポリタンに於て『日独文化比較から何を学

べるか』と題して公開講演(13:00入場 15:00まで)入場無料、一般歓迎)を催します。女史はハンブルグ大学、ルール大学、早稲田大学、東京大学で学ばれ、三島由紀夫「鏡子の家」等の研究で博士号、御主人は日本人画家、ヨーロッパ日本研究会(EATS)会長も勤められた働き盛りの才媛で、今年2月にはドイツ、3月20日迄アメリカへ出張、ハードスケジュールの中を群馬に4月16日午前11:00Maxで高崎に御来県下さいませ。11:15より有志の歓迎昼食会(¥6,000)(丹頂の間Ⅲ)。12:30より会員の11回年次総会(せきれいの間)(¥2,000)引続いて講演会(白鷺の間)(無料)のあと女史と共に上州文学散歩を郷土が誇る文化勲章受賞者土屋文明(アララギ歌人、100才没)記念文学館観賞(15:00~17:00)を試みます。御多忙の人は、どの部分でも歓迎ですから皆さまつれ立って御参加下さい。

120年前E.V.ベルツが群馬に温泉医学をもたらし、ブルーノ・タウトが60年前に高崎少林山洗心亭に2年3ヶ月居住され、日本美の再発見を教えてくれた。今度はキルシュネライト女史が春爛漫の上州に如何なる光を与えてくれるか、皆さまと共に期待しようではありませんか。

G.J.D.G 11年次総会予定

(日時) 1998.4.16 (木) (場所) 高崎駅ホテルメトロポリタン (6F)
(日程) 11:00 たにがわ(Max)にて講師高崎着 (駅 貴賓室にて休憩)
11:15 歓迎昼食会 (有料¥6,000) (丹頂の間Ⅲ)
12:30 第11回年次総会 (有料¥2,000) (せきれいの間)
13:30 開場
13:00 公開講演会「日独文化比較から何をまなべるのか」
15:00 (無料 一般歓迎) (白鷺の間)
15:00 高崎市内文学散歩(マイカーによる) 土屋文明記念文学館
17:00

講師は、三島由紀夫の研究者であり、欧州日本研究協会の会長もされた(1954~97年)才媛で日本語での講演です。

●希望者は4月5日(火)まで TEL 027-231-7212(前橋) 027-322-3166(高崎)
FAX 027-232-4082

ベルリン国際食品見本市

前橋市 佐藤進一

去る1月16日から25日迄ベルリンのグリュエネヴェッホで国際食品見本市が開催された。日本からの公式出品は今回がはじめてであるが本県からは利根郡川場村の永井酒造の銘酒「水芭蕉」が選出された。JAPANブースには栃木の苺（いちご）や青森の林檎その他10県以上から夫々の物産が展示されたけれど、清酒としては「水芭蕉」だけが出品されたので、群馬の代表即日本の代表食品と云う印象を与えた。それは初日のオープンセレモニーで鏡開きが州知事やベルリン市長、日本側からは稲川駐独大使その他の高官立会いの下に行われた為である。列席したドイツ人達は木の升で飲む日本酒の味を珍しく味わった事である。



永井酒造のハッピを着て水芭蕉の鏡開き
手前はディブゲン市長、隣は永井社長、稲川駐独大使など

実はベルリンで国際見本市が開かれる事は1月10日頃上毛新聞で知った。これ迄永井酒造のことは元県会議員をつとめられた事しか知らなかったが、ベルリンで行なわれるなら現地の独日協会へ知らせた方が良くと思い、手紙では間に合わぬので直接ハーシュ会長宅とメッシング夫妻宅へ電話した。幸いお二方共会場へ訪れ、永井社長と会い何かと激励されたと云う。特にメッシング夫人きえ子さんは通訳を買って出られ悉かにお役に立ったのである。この他女性薬剤師のペールさんにも電話をしておいたがお父上が病気の為伺えぬとの返事であった。ハーシュ会長やメッシング夫妻とは古い付合で3人共我が家を訪れている間柄である。

今回計らずも私の微力が永井様のため、引いては群馬のために役立った事は望外の幸せと言えよう。

(終)

国際見本市に出品して

永井酒造(株)代表取締役 永井 すみ子

雪深い尾瀬ヶ原の春先に咲きほころ可憐な水芭蕉をイメージした酒を造りたいとの一念で、試行錯誤を繰り返した後、尾瀬の地酒「水芭蕉」が生まれました。この度第63回ベルリン国際食品見本市に、清酒の代表として選定されました事は、本当に晴れがましく、又身の引き緊る思いがしておりました。然し乍ら幸いなことに私共の出品を新聞で知った「ぐんま日独」の佐藤様が、ベルリンの独日協会へ電話で連絡を取って下さったので、大変な便宜を計って頂きました。ハーシュ博士会長様やメッシング御夫妻も会場へ駆けつけて下され、特にメッシング夫人きえ子様には終日通訳のお手伝いをして下さるなど、身に余るご支援を頂きました事は感謝の極みです。

出かける前小寺知事様から「群馬県とドイツのかけ橋となして下さい」と激励されましたが、見本市のオープンセレモニーでは州知事、市長、日本大使、農水省審議官、貿易課長と云った方々の立合いのもとに、四斗樽の鏡開きが行われ、これがドイツ語のアナウンスで報道されて大喝采を浴びました。この模様は翌日の新聞にも写真入りで掲載されましたので群馬から遥々出品した苦勞が、やっと報われた気がしました。後日ハーシュ会長様やきえ子夫人が私共のホテルへ訪問されたので、出品した清酒は全てベルリン独日協会と日独センターへ寄贈することに致しました。

最後に今回この様な素晴らしい機会を作って下さった佐藤様と親身になって応援して頂いたきえ子様に心から御礼申し上げます。



左からハーシュ会長、町田課長、永井社長、きえ子夫人

シュミットさんに叙勲の荣誉



書齋にて
シュミット夫人

フランクフルト独日協会理事アレクサンドラ・シュミット夫人は先程日本政府より勲五等宝冠章を贈られた。(ハイマート14号に夫人の記事掲載)永年独日協会役員として、特に青少年のホームステイに力を尽くした功績によるものである。彼女は日本国内に多くの知人があり、先年の日本旅行の際もそれらの人々を訪ね廻り、その折我が家へホームステイした事がある。翌年の6月今度は私が彼女の家を訪れ数日間世話になった。彼女の嫁はてる子さんと云う千葉県出身の女性であるが、平生は別居している。昨年は彼女の紹介でスピロス君がぐんま日独を訪れホームステイした。(ハイマート16.17号に記載)積極的な行動派それがシュミット夫人である。

(佐藤記)



写真左より
北爪理事、対馬副会長、木暮会員、
田口理事、土屋理事
(佐藤副会長撮影)

1997.10.26 (日) 国際交流まつり 前橋市敷島公園で開催

毎年恒例のテントが並び各国の人々が語りあい、民族衣裳の素晴らしさに目をうばわれ、おいしいお料理に心も体も暖かくなりました。来年も見知らぬ国のお友達と又、お会いしたいですね。次回は1998.11.8(日)です。皆で参加致しましょう。

Xマスパーティの集い

高崎市 伊藤 康平

恒例の1997年のぐんま日独協会のXマスパーティが12月7日(土曜日)二時より群馬会館地下食堂で和やかに開催されました。

本年も平形会長のご好意により、ご自宅より見事なモミの大枝を会場にお運び下さりました。華やかなXマス、飾付けも映え、会場正面には日独両国旗が吊り下げられ、日独協会ならではの雰囲気がかもし出されました。

パーティには五十名以上のお客様がお見えになり、定刻二時、角田副会長の司会進行で開始いたしました。

平形会長よりこの一年を振り返りかえてみて簡単な協会の諸行事や経過報告があり次いでパーティに移りました。

第一部は特別出演の植村菜穂様のバイオリン独奏が行われました。

植村様は当協会発行のチラシやプログラムでそのプロフィールについてはご存知かと思いますが新進気鋭のバイオリニストで国内各地のリサイタルに入賞され1993年にはウィーン国立音楽大学に入学され、多くの国際バイオリンコンクールに入賞されました。

現在もオーストリアを中心に各国のオーケストラと共演され活躍中でございます。

植村様の会場一ぱいにすき透る様な力強い弦の音色に



引き込まれ聴衆者全員が大きな拍手でお答え致しました。又見事な演奏に対し会から大きな花束を贈呈致しました。ついで第二部ではXマスソングの合唱があり参加者全員のハーモニイも見事でした。Xマスパーティの雰囲気も次第に昂揚して来た頃、白いひげを付け赤い服を着たサンタのおじさんがトナカイならぬ黒い長靴をはき徒歩で大きな袋を背負いテーブルの間を廻って会員の方に心ばかりのプレゼントをお渡し致しました。サンタのおじさんは昨年同様に対馬・伊藤副理事の仮装した姿であります。

次はパーティの最大のイベントでもあるプレゼント交換会であります。田口理事・土屋理事のスムーズな進行で正面テーブルに積まれた品物に番号が呼び上げられ、その該当する番号の会員が正面に参上して品物と引換える手順です。開いて思わず笑みをこぼされる方、苦笑いを表わす方もおられ、おたのしみの交換会も無事終了いたしました。交換会の後は各テーブルから自慢のノドを披露するお客様もあり、新会員紹介などもございました。終って会員の記念撮影をすませ行事も終了いたしました。

今回會員の鈴木克彬ご夫妻がドイツ山岳地方に伝わる民族舞踊を実演して下さい、全員で輪になって軽やかに踊ることが出来ました。

1997年のぐんま日独協会のXマスもいくつかの想い出を残してのしく終了致しました。今回のXマスパーティを機に新會員の数もふえ親交の輪も一段と広がりました。県内には日独友好を希望され未加入の友人がたくさんおられます。現會員の皆様のお力添えで一人でも多く加入者がふえる事を希望致しております。

本年末にもXマスパーティを開催する予定であります。皆様と再開する日をたのしみに健康に注意され元気に1998年をお過ごし下さい。



会員のお便り

ドイツ エッセン

渡川市 堀口 靖之

97年秋4回目ですが約25年振りに10日間ドイツ旅行をしました。もっとも内2日はブラハにも行きましたが、総じてドイツ一国のみの旅行と言えるのでドイツの印象が強く、今回は感じを一部エッセンに絞って記してみました。

溶接業界の30人の団体でして、主眼はエッセン市で4年に1回開催される「第14回国際溶接見本市」エッセンメッセでした。エッセンは初めてでしたが他にデュッセルドルフ ケルン ブラハ ベルリンを旅しまして、9月中旬の天気恵まれたツアーでした。

今度初めて気がついたことでしたが、ドイツの旅行案内書はどんな薄いものでも「メッセ」見本市が載っていました。つまりドイツのメッセは昔からそれほど有名で、国・州や市が力を入れている商業であり観光産業でした。メッセは幕張しか知りませんでしたが、その元がドイツだったのでした。ドイツの大都市約12では世界的に有名な見本市が大々的に定期的にたくさん開催されています。

皆様もエッセン（62万人）には比較的立ち寄られることは少ないのではないのでしょうか。私共には縁の薄い町ですので、ドイツ第6の大都市であることに気がついた方はほとんどいないでしょう。街の中心にドイツでも名の通ったホルクワング美術館とルール地区博物館エッセンがありますが、案内図でそのビスマルク通りの反対側に「Glückauf Haus」ビルを見つけました。当日独協会96年高崎総会で研修者の皆さんが懐かしく歌ってくれたものでした。Glückaufは入坑する坑夫に「ご無事で!」 Good Luck to youという意は言うまでもないことですが、歌とビルが一致して協会のメリットを感じた一時でした。エッセン中央駅の南広場にはRAG社（ルール地区最大炭鉱会社）寄贈のトロッコが産業記念品として実物が展示されておりました。ここはドイツ最大の工業地区ルール炭鉄鋼地区の中心です。世界的に有名なクルップ社テュッセン社等の鉄鋼本社所在地です。一方鉄鋼や石炭産業は斜陽ですが、新産業に転換が進んでいることを政府は広報しています。

もう一つ当地で意外だったのはプロシャのことでして、私はプロシャはベルリン周辺地区のドイツ東部だけで成り立っていて、1872年に全ドイツ統一を成し遂げたと思っていました。しかしこのラインルール地区は19世紀半ばから欧州最大の工業地区ですが、当地区は既に1802年に東部から飛び地でプロシャの領地になったということでした。プロシャの強かった理由の一つでしょう。

すみませんがページの関係でエッセンの途中で終わってしまいました。（1998.1.24）※次号へ続きます。

ドイツに於ける廃棄物について

館林市 対馬 良一

昭和33年頃、私がドイツで生活した当時ゴミと称するものがほとんど無かった事を思いだす。読み終えた新聞紙は翌日のパンの包み紙として使用され地下の坑内の中に埋まってしまう。まだプラスチックなどあまり一般に普及していなかった時代だったので特に、包装廃棄物規制法など無かったと記憶している。一昨年、グリュックアウトツアーで、ドイツを訪問したとき、非常に興味があり、かつての下宿先の人とこの件で話しあった。また、スーパーに出かけ実際に買物をしてみた。スーパーではほとんど包装はされてない。リンゴ、ミカンなど果物売り場のコンピューターに商品載せると、その品物の値段が自動的に印字されたレシートが出てきてそれを商品に貼りつけレジで支払うようになっている。ワイシャツなども箱には入っていない。消費者は買い物袋を持参する。商品はほとんどムキ出しのままで、袋づめなどする必要もない。街のゴミ箱にゴミが溢れて路上に散乱しているような事はない。ゴミ箱はリサイクル可能別に区分けされている。ビンなどは色によって区分され、古着などはゴミとしてでなく使用できる様な方法で回収していた。



右側 古紙回収箱 左側 古着回収箱（衣類）

廃棄物処理法も制度化されすべての生産者は責任をもって包装用バックや使用済の包装材の回収を義務づけている。回収困難な企業は業者に委託回収させているようである。リサイクルしづらい素材で包装容器を作ると処理費も高くつくので各企業は出来るだけリサイクル包装材を作ることに努力している。私は一般の家庭での事しか分かりませんがドイツの産業廃棄物処理法はかなり厳しいようで、コンピューター、自動車、家庭電気用品などは、リサイクルや回収の義務が出来ない企業は当然、商売もできなくなるだろう。日本の企業もこれらの法的規制をよく考えなければ国際競争に負けて輸出も不可となる。この廃棄物の回収、再利用を義務づけた法律がDSD（デュアル システム）と緑のマーク（グリュネンブント）がある。これらの事はゴミ減量システム研究家の松田美夜子女史がくわしく記述している。松田女史はドイツ国内のリサイクル規制令はいずれヨーロッパ連合（EU）加盟国の規格に適合されるのに違いないと論じている。ドイツの下宿先だったボンベ夫妻は、世界中でいちばん環境、廃棄物等について厳しいのはドイツである。各家庭ではゴミをできるだけ少なくするのに努力している、と話していた。国民性とはいえ日本の家庭でも学ぶべきだと痛感する。ゴミ、産業廃棄物を処理することを論ずる前に、ゴミ、産業廃棄物を出さないことに努力する姿勢が大事であると思う。

クイズ ～ドイツの川～

沼田ドイツ語会 角田 勤

流れの緩やかなドイツの川は、日本に比べてかなり濁っています。しかし緩やかな流れは、水運面での利用を可能にし、それが川沿いの街を発展させたのでしょうか。

今回のクイズは、ドイツの町と川です。少々難しいですが、地図を見て挑戦して下さい。

"Verbinden Sie bitte Rechte und Links!"

- | | |
|-------------|----------|
| 1 ミュンヘン | a タウバー川 |
| 2 フェッセン | b マイン川 |
| 3 ドレスデン | c エルベ川 |
| 4 フランクフルト | d ドナウ川 |
| 5 ローテンブルク | e ベグニッツ川 |
| 6 トリーア | f イザール川 |
| 7 パンベルク | g ネッカー川 |
| 8 チュービンゲン | h モーゼル川 |
| 9 ハーメルン | i レヒ川 |
| 10 リューベック | j ヴェーザー川 |
| 11 ニュルンベルク | k トラヴェ川 |
| 12 レーベンスブルク | l レグニッツ川 |

(答は最後のページ)

スピロス君に学んだ事

渋川市 高橋 たみ子



群馬日独協会々長平形先生よりドイツから大学生が群馬へくるといふことで、何の準備もすることなくお受けしました。9月25日宮城村から北爪様がわざわざ連れてきてくださいました。彼の名前はスピロス君、顔は毛深いですが人なつこい話好きの好感のもてる青年で年より大人に見えました。我が家では七人家族四世代同居、英語、ドイツ語、日本語と入りまじり、世話役の私は日本語と、少しの英単語に身振り手振りでどう日本を紹介したらよいか。幸い到着した日が、県立女子大文化祭で(長男の嫁が現在大学院生)院生の中に、ドイツ語、ギリシャ語専攻生がおり、若い女子大の学園に入ってもらえるのも良いと思ひ此の日はお任せしました。教室に入ると、ギリシャ語、ドイツ語で歓迎の大文字にびっくり、遠い日本に来て、母国語に触れるとは夢にも思わなかったことでしょう。

二日目は彼は一人で町を散策、途中道に迷ってしまったらしいです。食事は鳥肉、魚、何でも御飯といっしょに食べてくれて心配はありませんでした。彼は料理が好きで、私達にビザの作り方、ギリシャ風鳥肉と野菜のトマト煮、簡単でおいしい御馳走が出来上がり、彼の手慣れた早業に感心しました。夜は知人の空手道場へ、子供達の練習を見学、彼も空手を習っていたせいか興味があったようでした。三日目私達夫婦で軽井沢ドライブに誘い、私の運転で行って来ました。私の年で運転するのは珍しいのか驚かれました。特に浅間山は活火山で煙の出る景色には珍しく思ったようです。四日目は小学校の運

動会を少し見てあとお寺でもと思いましたが、お寺はもうたくさんだからと断られました。いよいよ渋川を發つ日も近づき彼は東京・京都と友人と連絡も忙しくなりお別れ日となりました。

平形先生も駅迄見送りに見えられ短かった渋川滞在も終りを迎えました。彼に学んだ事として先づ経済をよく考えている。水を大切にすること。祖国を愛する心。今、日本で失いつつあることばかりです。



県立女子大にて
スピロス君の隣が長男の嫁
高橋みどり

『私の第九合唱』

高崎市 豊泉 珠江

私は以前からベートーベンの第九を歌って見たいと思って居ましたが、昨年四月のぐんま日独協会第十回大会の折、高崎第九合唱団のドイツ民謡を聴き、それが縁で知人の団員さんに薦められて、六月に入団させて頂きました。練習日は毎週木曜日の午後六時半過ぎから二時間で、入団したその日から発声練習の後早速第九の合唱に入りました。チンプンカンプンの私をよそに、まわりの人達は流暢なドイツ語で悠々と歌って居ました。私はすっかり気後れしてしまいましたが「イヤ、私は私なりやれるだけやってみよう」と渡された楽譜と歌詞を基に練習計画を立てました。先づ十二月の本番迄七ヶ月ありますので、前半の三月二十行あるドイツ語の歌詞を覚え、後の四ヶ月で暗譜する事にしました。暇ある毎にテープを聞きながらドイツ語を覚えまくりましたが、前半の十行程度覚えたところで私の弱い脳は限界に達したらしく後半がどうしても頭に入らないのです。やっぱり還暦を過ぎた私には無理だったのか、と諦めかけて居た或日、ふと面白い言葉が浮かんで来ました。それは「サイトウムシュルゲン ミリオーン」の一節が「財富しゆるねんミリオーン」で「ディル ガンツェン、ヴェルト」が「出る安全ベルト」次「リーベル ファーテル ヴォーネン」が「リーベホテル ホーネン」です。作詞者「シラー」に謝りながらこの替歌戦法で、苦しんだ後半の十行は面白く覚える事が出来ました。その後発音と歌詞の意味をじっくり教えて頂き、十一月には指揮者より、歌詞により軽やかに、又静かに歌う所等教えて頂き、本番前には替歌の方はすっかり忘れて、ベートーベンの「歓喜の歌」まさにその物を心から歌える様になりました。本番は1997年12月20日でした。群馬音楽センターの舞台に立ち、二千人のお客様を前にして、群響の演奏の下、大合唱を歌い終えた時には体が熱くなる程感動しました。私はこれからも毎年歌い続けたいと思っております。(今年2月長野オリンピック開会式でも第九合唱が小沢征爾の指揮で大成功でした。)

たまごっちに見る ドイツの今と日本

高崎市 井上晃良

1996年冬、私がまだドイツ滞在中の頃、風の便りに“たまごっち”なるサイバーペットのゲームが日本で流行しているのを耳にした。その直後日本へ一時帰国した際、日本でそれを買おうと思ったが、手に入れることは不可能だった。

その後私は再びドイツへ戻り、今度はその“たまごっち”が日本のみならず欧米へも輸出されるという話を耳にした。

その時私はアメリカはさておき、ヨーロッパ、特にドイツなどまず流行る訳がないと思っていた。というのは、ドイツ人は現実的で日本人のような非現実の世界を楽しむなどということはあまり好まないのではないか。という思いが私の中にあっただからだ。その証拠にファミコン／テレビゲーム等も日本程のブームになっていない。

そしていよいよ初夏のある日、ドイツ国営放送のニュースで“たまごっち”の到来を報じた。しかしそれはイギリスでの話。その画面ではレジに並ぶ日本人とおぼしき東洋人の列が映っていた。ああやっぱりと思ったのもつかの間、数週間後にはドイツにも上陸していて、私が初めて店先でこれを発見したとき、他の玩具同様整然と並んでいたのである。しかし、その時はもうドイツでもブームに火が付きはじめていたのかも知れない。10代の若者に人気のある雑誌“BRAVO”等に“たまごっち”が紹介され、数週間で知名度は上がったようだ。民放のテレビを筆頭にどれ程の特集番組があっただろうか。もちろん新聞にも載った。ドイツでも10代の若者を中心にブームとなったのだ。玩具店の店先からは急に“たまごっち”が姿を消し、代わってこれも日本同様“たまごっちもどき”なる類似商品が出回り始め、南ドイツの大型玩具店では入荷発売後6分で売り切れるということがニュースで報じられる程となった。中には値段を吊り上げる店まであった程である。

私にとって日本が関わることでこれ程興味深い出来事は未だに経験しなかった。かつて日本製玩具がドイツでブームになったのは、昔日本でも流行った“モンチッチ”以来であったという。



そもそもドイツでは比較的プリミティブな玩具が好まれ、多く作られ、そして売られている。例えば積み木や人形等がそうである。ぬいぐるみや鉄道模型に至っては、その品質の高さ故、子供から大人まで多くのファンを持ち、そのファンの心を掴んで離さない。これは作り手が玩具に大きな情熱をかけているためであろう。こちら辺は非常にドイツ的と感じるのである。さて、このドイツに於ける“たまごっち”ブームはドイツ人の変革を表わしているのかもしれない。勿論この日本製サイバーペットがドイツ人有識者のヤリ玉に挙げられたのはいうまでもない。例えば青少年の精神衛生上有害である。とか、この“たまごっち”に使われているボタン電池のためにどれほどの環境が被害を受ける。とか、概して評判は良くない。私自身運良く？発売当初買うことができたが、今になって思うひとつだけはっきり言えることがある。それは、飽きがくるのが非常に早く、ブームが去れば忘れられる存在なのである。日本製ハイテク玩具もドイツの伝統に基づいた玩具にはまだ追いつけないのである。

クリンゲさんのこと

前橋市 佐藤進一

バイエルン独日協会々長であるギュンター・クリンゲ (Guenther Klinge) さんは永年日独の友好親善につとめておられる方であるが、昨春秋東京を訪問された折、ぐんま日独から平形会長と私が表敬の挨拶に出席した。時は10月24日昼、所はパレスホテルである。氏はミュンヘンで製薬会社を営む企業家であるが、政治家としても永年活躍された方で現在は名誉上院議員と云う肩書を持つ



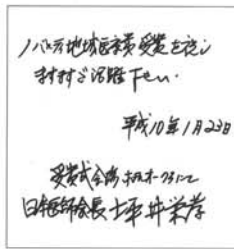
パレスホテルにてクリンゲ夫妻

いる。高名は兼々伺っていたが初めてお目にかかったのは3年前ザールブリュッケンで独日協会総会が開かれた時であった。同じホテルへ泊まったので毎朝食堂で同席して挨拶したので親しみが湧いた。氏は唯の親日家である許りでなく、俳句に共鳴し自らドイツ語による三行詩を良くし、これに日本語訳を添えて出版されている。永田書房から第5句集イカサの夢、第6句集石庭に行つて出版している。東京旅行の際も通訳（ミュンヘン在住の日本女性）を同伴すると云うリッチな旅行ぶりである。

(ハイマート15号にもクリンゲ氏の俳句掲載)

[受賞]

●角田勲副会長は1998年1月22日ホテルオークラに於いて、『ノヴァリティス地域医療賞』を受賞。坪井栄孝日本医師会会長やノヴァリティス・ファーマー社長 ベドロ・ライザー氏等からの、栄えの祝賀を受けられました。県下では2人目の栄冠です。



日本医師会会長
坪井 栄孝先生のサイン



ノヴァリティス・ファーマー社長
ベドロ・ライザー氏の
お祝いのサイン

『文部大臣賞』

●佐藤進一副会長は『文部大臣賞』学校保健功労を1998年1月24日東京で表彰されました。長年の地道なお役目に頭が下がります。

本当にお目出度うございます。

お知らせ

植村 菜穂(うえむら なほ)バイオリン演奏会

- 日 時 平成10年9月23日(秋分の日)
6:15pm開演
 - 場 所 前橋テルサホール(駐車可)
(開場は5:45pm)
 - 曲 目 バッハ 無伴奏組曲第3番(ホ長調)
モーツァルト 協奏曲第4番(ニ長調)
ベートーヴェン ロマンズ(ト長調)
ブラームス ソナタ第3番(ニ短調)
その他楽しい名曲多数
 - 入場券 S¥2800 A¥2300
- ※問合せ、申込は 佐藤進一迄(Tel 027-231-4019)

(6Pのクイズの答)

1-f. 2-i. 3-c. 4-b. 5-a. 6-h. 7-l. 8-g. 9-j. 10-k. 11-e. 12-d

ご案内

ぐんま日独協会第11回記念講演会

【入場無料】

■講 演 ドイツー日本研究所長
ベルリン自由大学教授
J.日地谷.キルシュネライト女史
「日独文化比較から
何を学べるのか」



ー生活、教育、家庭での視点からー

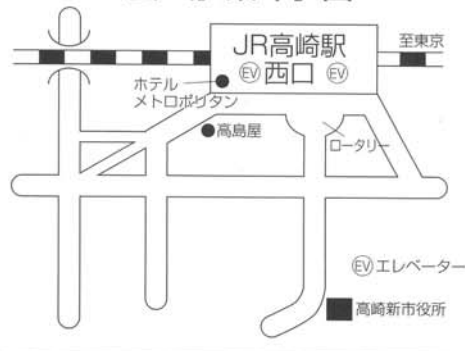
■日 時
・4月16日(木) 午後1時30分～3時

■場 所
・高崎駅、ホテルメトロポリタン高崎
(6F白鷺の間)

多数のご来場をお待ちいたします。

(開場 1:00pm 100名まで)

会場案内図



【新会員募集中】

希望者は下記へご連絡下さい。
〒371-0018 前橋市三俣町3-11-12
TEL 027-231-7212
FAX 027-232-4082

◇原稿ご案内◇

日独交流につながるご感想・情報・会員消息・作品を住所・氏名・職業・年齢・電話番号明記の上、お寄せ下さい。紙面の都合で編集部で手直しさせていただきます。(800字以内)
◎原稿の返却は致しません。宛先は表紙参照。